

参考資料編

- 資一1 計画策定の経緯
- 資一2 扶桑町都市計画マスタープラン策定委員名簿
- 資一3 住民意向調査
- 資一4 緑の将来計画
- 資一5 用語解説



資一1 計画策定の経緯

■令和4年3月策定時

(1) 扶桑町都市計画マスタープラン策定委員会

回数	日程	内容
第1回	令和2年10月30日	1. 都市計画マスタープランの改定 2. 扶桑町の現況 3. 住民意向調査の実施
第2回	令和3年2月5日	1. 扶桑町のまちの特性 2. 住民意向調査の結果報告 3. 現行計画の評価結果 4. 扶桑町のまちの課題
第3回	令和3年5月12日	1. 全体構想（素案）
第4回	令和3年8月6日	1. 全体構想（案） 2. 地域別構想（素案）
第5回	令和3年10月15日	1. 地域別構想（案） 2. 都市計画マスタープラン（案）
第6回	令和4年1月21日	1. パブリックコメントの実施結果 2. 都市計画マスタープラン（案）

※新型コロナウイルスの流行による感染予防対策として、第2回及び第3回は書面開催とした。

(2) 扶桑町都市計画マスタープラン作業部会

回数	日程	内容
第1回	令和2年10月2日	1. 都市計画マスタープランの改定 2. 扶桑町の現況 3. 住民意向調査の実施
第2回	令和3年1月19日	1. 扶桑町のまちの特性 2. 住民意向調査の結果報告 3. 現行計画の評価結果 4. 扶桑町のまちの課題
第3回	令和3年5月11日	1. 全体構想（素案）
第4回	令和3年7月21日	1. 全体構想（案） 2. 地域別構想（素案）
第5回	令和3年10月8日	1. 地域別構想（案） 2. 都市計画マスタープラン（案）
第6回	令和4年1月13日	1. パブリックコメントの実施結果 2. 都市計画マスタープラン（案）



(3) 地域別住民意見交換会

本計画の地域別構想の策定にあたり、地域住民の意見を踏まえた計画策定を行うために、地域ごとに住民意見交換会を実施しました。

地域	日程	出席者数	内容
山名地域	令和3年8月23日	8名	1. 都市計画マスタープラン 2. 扶桑町の現況 3. 全体構想 4. 地域別構想
柏森地域	令和3年8月24日	7名	
高雄地域	令和3年8月26日	2名	

(4) パブリックコメント

本計画の案について、幅広く住民の意見を伺うために、パブリックコメントを実施しました。

日程	周知方法	意見の提出結果
令和3年11月1日～ 令和3年11月30日	広報ふそう 扶桑町ホームページ 広報無線	意見提出者数 1名 意見件数 3件

(5) 都市計画審議会

日程	名称	内容
令和4年2月18日	都市計画審議会	都市計画マスタープラン

(6) 扶桑町議会

日程	名称	内容
令和2年10月23日	議員全員協議会	住民意向調査の実施
令和3年10月25日	議員全員協議会	パブリックコメントの実施
令和4年3月25日	議会	都市計画マスタープラン



■令和6年3月部分見直し時

(1) 扶桑町都市計画マスタープラン策定委員会

日程	内容
令和5年11月17日	都市計画マスタープラン部分見直しの背景と対応方針

(2) 扶桑町都市計画マスタープラン作業部会

日程	内容
令和5年10月26日	都市計画マスタープラン部分見直し内容・スケジュール

(3) パブリックコメント

本計画の案について、幅広く住民の意見を伺うために、パブリックコメントを実施しました。

日程	周知方法	意見の提出結果
令和5年12月1日～ 令和5年12月31日	広報ふそう 扶桑町ホームページ	意見提出者数 1名 意見件数 1件

(5) 都市計画審議会

日程	名称	内容
令和6年1月31日	都市計画審議会	都市計画マスタープラン部分見直し

(6) 扶桑町議会

日程	名称	内容
令和5年11月22日	議員全員協議会	パブリックコメントの実施
令和6年3月27日	議会	都市計画マスタープラン



資一2 扶桑町都市計画マスタープラン策定委員名簿

■令和4年3月策定時

(順不同・敬称略)

区分	所属団体・役職等	氏名
学識経験者	名古屋経済大学地域連携センター長	岡田 和明
住民代表	柏森小学校下	津田 善正 (令和2年度)
		市橋 英男 (令和3年度)
	高雄小学校下	千田 進悟
	山名小学校下	北折 博
	扶桑東小学校下	千田 美香
	高雄東部土地区画整理組合発起人会代表	牧野 進
団体代表	愛知北農業協同組合扶桑支店長	浅井 貴史
	扶桑町商工会長	鈴木 洋
愛知県	愛知県都市計画課長	齋藤 保則 (令和2年度)
		小井手 秀人 (令和3年度)
	愛知県一宮建設事務所企画調整監	小野口 勝久 (令和2年度)
		稲垣 政行 (令和3年度)
扶桑町	副町長	北折 廣幸 (令和3年度)
	総務部長	紀平 剛志
	健康福祉部長	高木 明
	健康福祉部参事	糸井川 浩
	産業建設部長	澤木 俊彦
	会計管理者	尾関 実
	教育次長	志津野 郁
	議会事務局長	江口 英樹



■令和6年3月部分見直し時

(順不同・敬称略)

区分	所属団体・役職等	氏名
学識経験者	名古屋経済大学地域連携センター長	岡田 和明
住民代表	柏森小学校下	大藪 國義
	高雄小学校下	渡辺 誠
	山名小学校下	小室 明正
	扶桑東小学校下	安藤 政美
	住民活動団体	早岐 優一
団体代表	愛知北農業協同組合扶桑支店長	暮石 好伸
	扶桑町商工会副会長	浅野 朋幸
愛知県	愛知県都市計画課長	伊藤 慎悟
	愛知県一宮建設事務所企画調整監	諸戸 健一
扶桑町	副町長	北折 廣幸
	総務部長	兼松 和彦
	生活安全部長	長谷川 明夫
	健康福祉部長	紀平 剛志
	産業建設部長	村田 武司
	教育部長	仙田 剛宏
	議会事務局長	川瀬 直彦



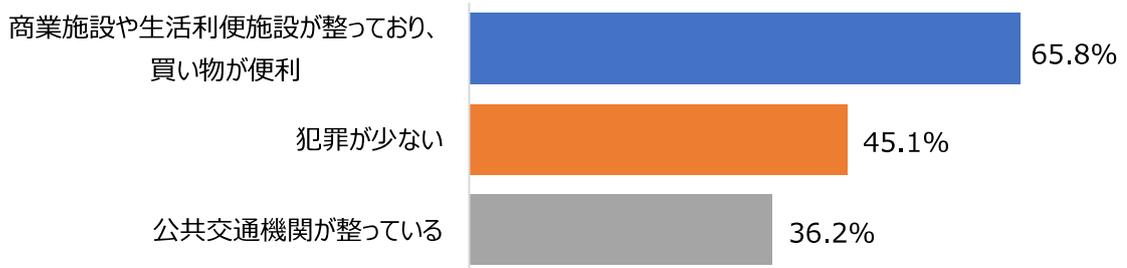
資一3 住民意向調査

(1) 調査結果

1) 住みやすさについて

①住民が考える住みやすさの基準について

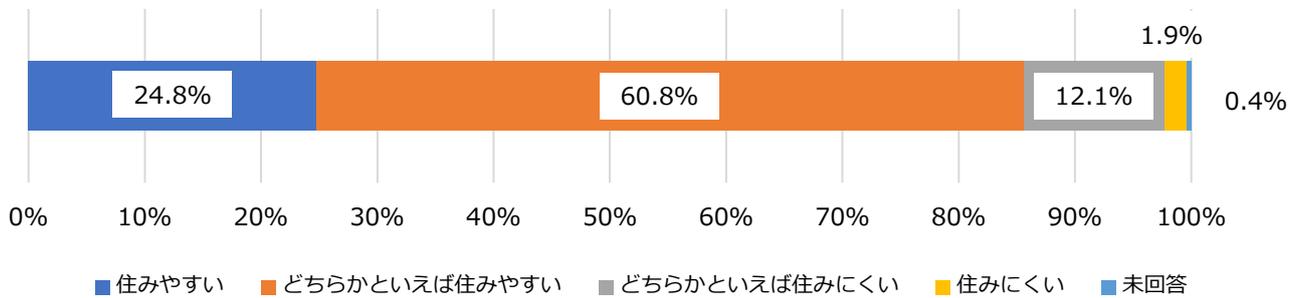
上位3位までによれば、「商業施設や生活利便施設が整っており、買い物が便利」、「犯罪が少ない」、「公共交通機関が整っている」ことが住民の考える住みやすさの主な基準であるとわかります。



回答件数：2,499件 回答なし：7件 母数：878件 ※複数回答可（3つまで）

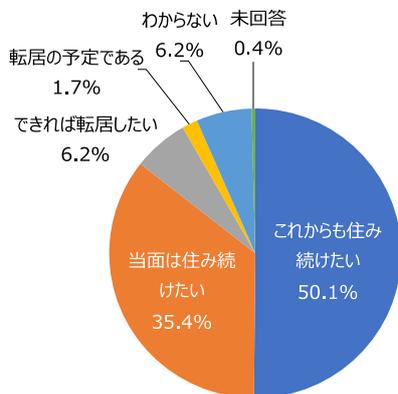
②町の住みやすさについて

「住みやすい」と「どちらかといえば住みやすい」が約86%を占めており、大半の住民が扶桑町を住みやすいと感じています。また、「これからも住み続けたい」と「当面は住み続けたい」も約86%を占めています。



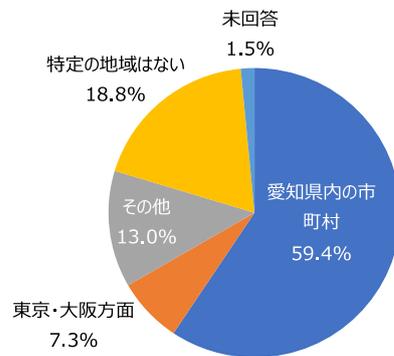
回答件数：875件 回答なし：3件 母数：878件

■これからも住み続けたいか



回答件数：874件 回答なし：4件 母数：878件

■転居予定または希望がある場合の転居先地域

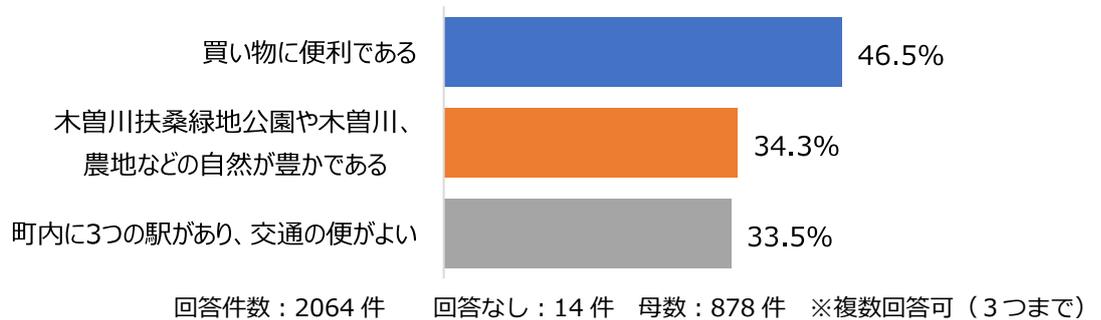


回答件数：68件 回答なし：1件 母数：69件



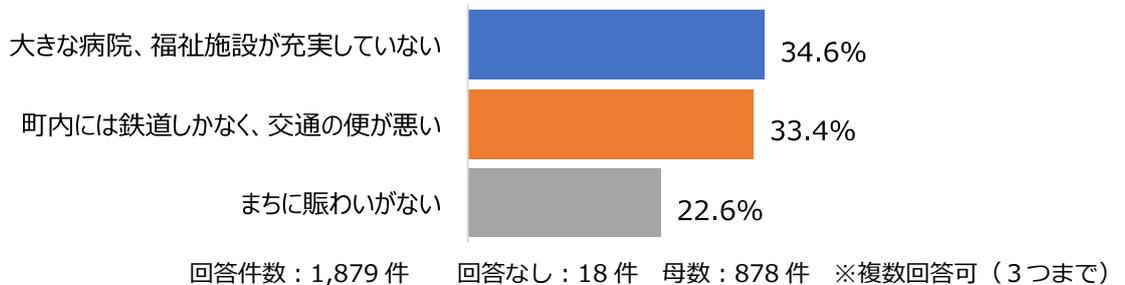
③生活環境で良いと感じる点について

上位3位までによれば、「買い物に便利である」、「木曽川扶桑緑地公園や木曽川、農地などの自然が豊かである」、「町内に3つの駅があり、交通の便がよい」ことがあがっています。



④生活環境で悪いと感じる点について

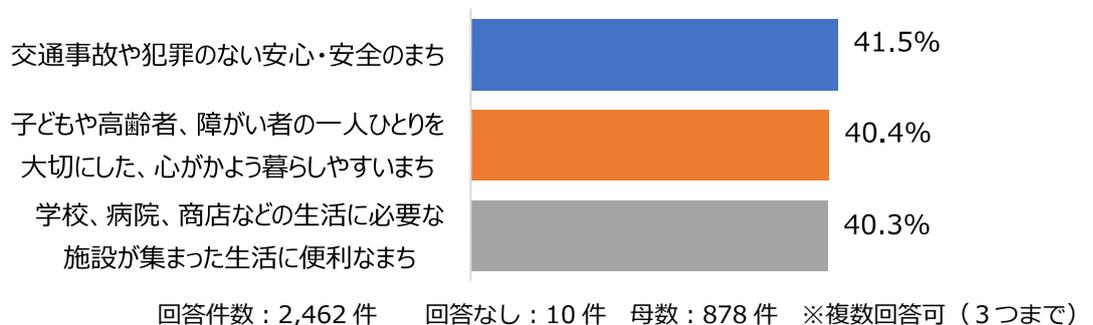
上位3位までによれば、「大きな病院、福祉施設が充実していない」、「町内には鉄道しかなく、交通の便が悪い」ことがあがっています。



2) まちの将来像について

①どのようなまちを目指すべきか

上位3位までによれば、「交通事故や犯罪のない安心・安全のまち」、「子どもや高齢者、障がい者の一人ひとりを大切にしたい、心がかよう暮らしやすいまち」、「学校、病院、商店などの生活に必要な施設が集まった生活に便利なまち」がほぼ同等に望まれています。

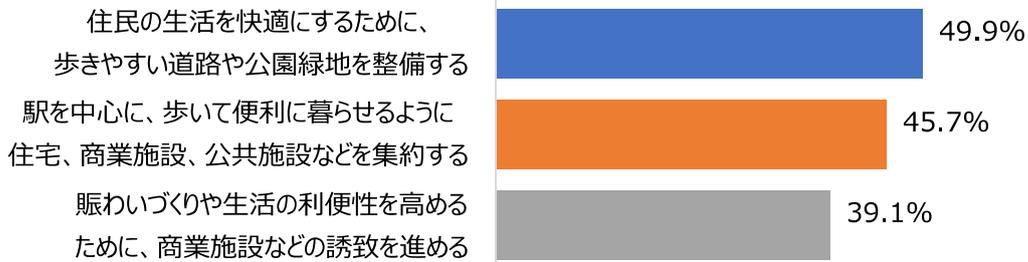




3) 都市整備の方向性について

① どの様な開発・整備を進めたらよいか

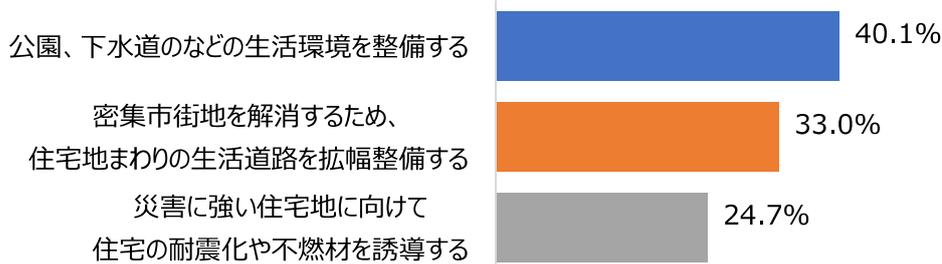
上位3位までによれば、「住民の生活を快適にするために、歩きやすい道路や公園緑地を整備する」、「駅を中心に、歩いて便利に暮らせるように住宅、商業施設、公共施設などを集約する」、「賑わいづくりや生活の利便性を高めるために、商業施設などの誘致を進める」ことが求められます。



回答件数：1,951件 回答なし：7件 母数：878件 ※複数回答可（3つまで）

② どの様な住宅地の整備を進めたらよいか

上位3位までによれば、「公園、下水道などの生活環境を整備する」、「密集市街地を解消するため、住宅地まわりの生活道路を拡幅整備する」、「災害に強い住宅地に向けて住宅の耐震化や不燃材を誘導する」ことが求められます。



回答件数：1,857件 回答なし：9件 母数：878件 ※複数回答可（3つまで）

③ どの様な商業地の整備を進めたらよいか

上位3位までによれば、「歩いて買い物ができるように住宅地の周りに分散させて商業施設の立地を誘導する」ことが一番多くなっています。



回答件数：1,523件 回答なし：11件 母数：878件 ※複数回答可（3つまで）



④ どの様な工業地の整備を進めたらよいか

上位3位までによれば、「新たな企業誘致に向けて、工業地を拡大する」、「今ある工業地をこれ以上減らさないように守る」ことが求められます。これらと同程度、「わからない」も多くあげられています。



回答件数：1,181件 回答なし：13件 母数：878件 ※複数回答可（3つまで）

⑤ どの様な農地の保全・活用を進めたらよいか

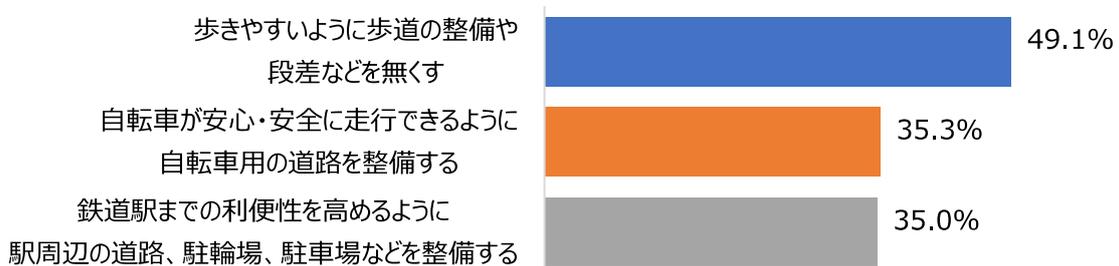
上位3位までによれば、「農地をできるだけ残しながら、部分的に住宅地や商業地、工業地として利用する」、「農園付き住宅や町民農園など、付加価値を加えた農地の活用を進める」ことが求められます。これらと同程度「わからない」も多くあげられています。



回答件数：799件 回答なし：79件 母数：878件 ※複数回答可（3つまで）

⑥ 道路・交通環境の充実のためにどの様な整備が必要か

上位3位までによれば、「歩きやすいように歩道の整備や段差などを無くす」ことが一番多くなっています。

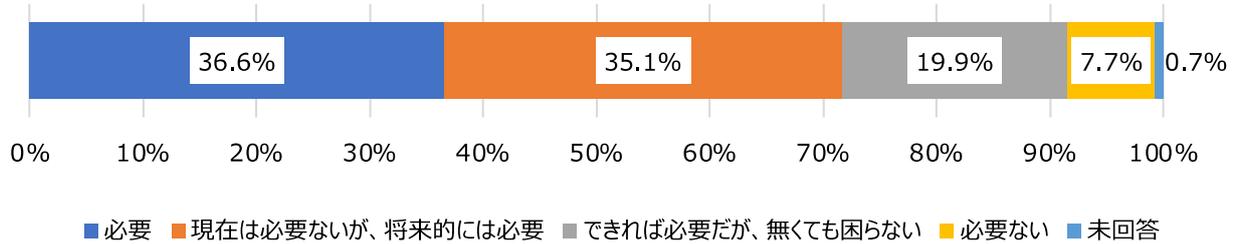


回答件数：2,022件 回答なし：12件 母数：878件 ※複数回答可（3つまで）



⑦新たな地域公共交通の必要性について

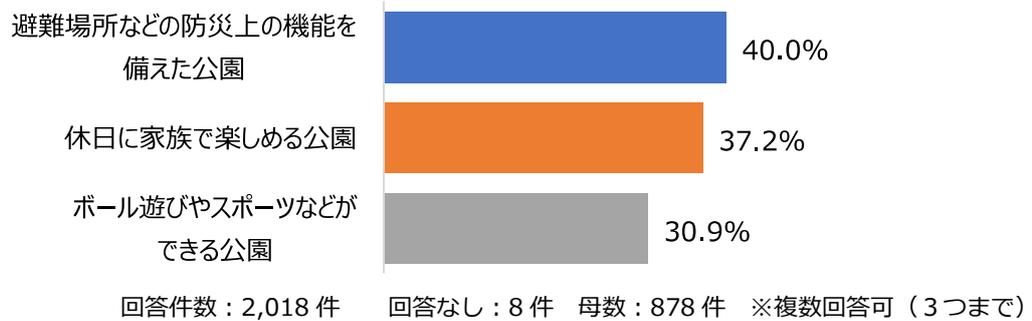
「必要」と「将来的には必要」が合わせて約 72%を占めており、住民の多くは新たな公共交通を求めています。



回答件数：872 件 回答なし：6 件 母数：878 件

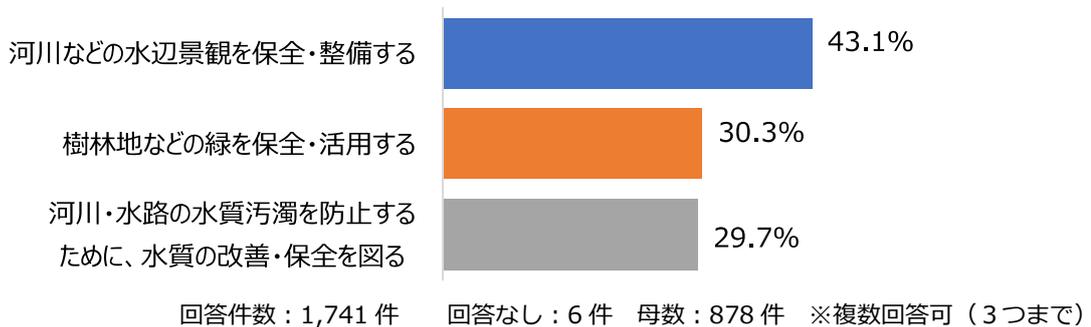
⑧どのような公園・緑地が必要か

上位3位までによれば、「避難場所などの防災上の機能を備えた公園」、「休日に家族で楽しめる公園」、「ボール遊びやスポーツなどができる公園」が求められます。



⑨どのような自然環境の保全の取り組みが必要か

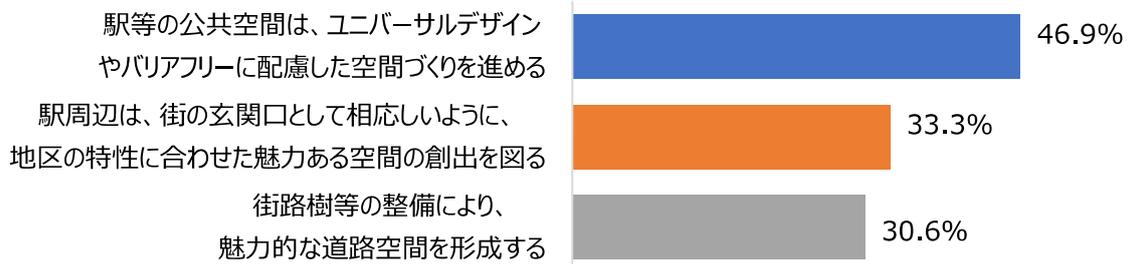
上位3位までによれば、「河川などの水辺景観を保全・整備する」ことが一番多くなっています。





⑩ どの様な都市整備が有効か

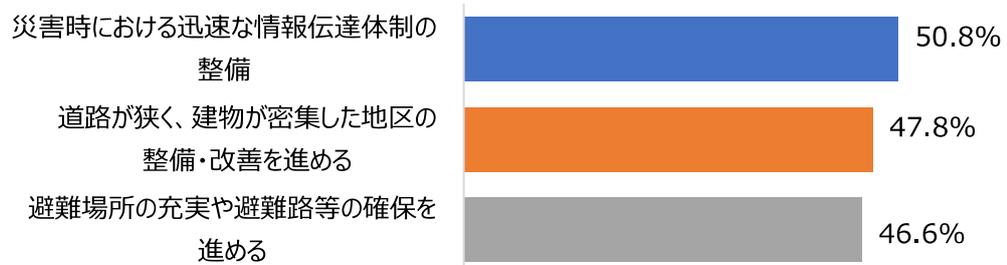
上位3位までによれば、「駅等の公共空間は、ユニバーサルデザインやバリアフリーに配慮した空間づくりを進める」ことが一番多くなっています。



回答件数：1,597件 回答なし：17件 母数：878件 ※複数回答可（3つまで）

⑪ 防災に強いまちづくり実現のためにどの様な取り組みが必要か

上位3位までによれば、「災害時における迅速な情報伝達体制の整備」、「道路が狭く、建物が密集した地区の整備・改善を進める」、「避難場所の充実や避難路等の確保を進める」ことが求められます。

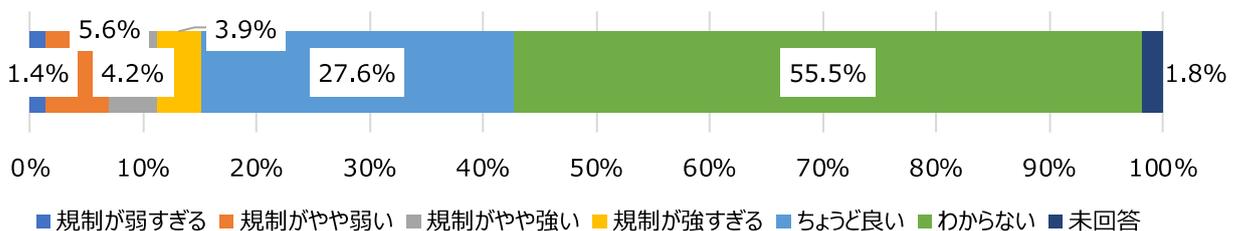


回答件数：2,005件 回答なし：16件 母数：878件 ※複数回答可（3つまで）

4) 都市整備の規制について

① 都市計画規制についてどのように感じているか

「わからない」が多く、十分な理解が得られていないと考えられます。

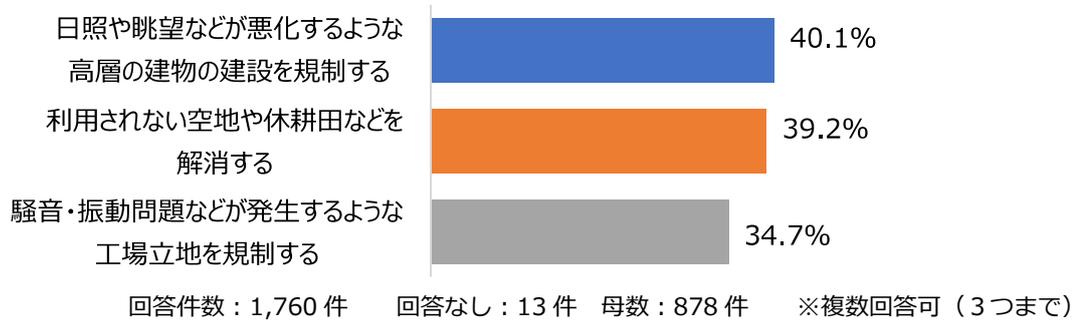


回答件数：861件 回答なし：17件 母数：878件



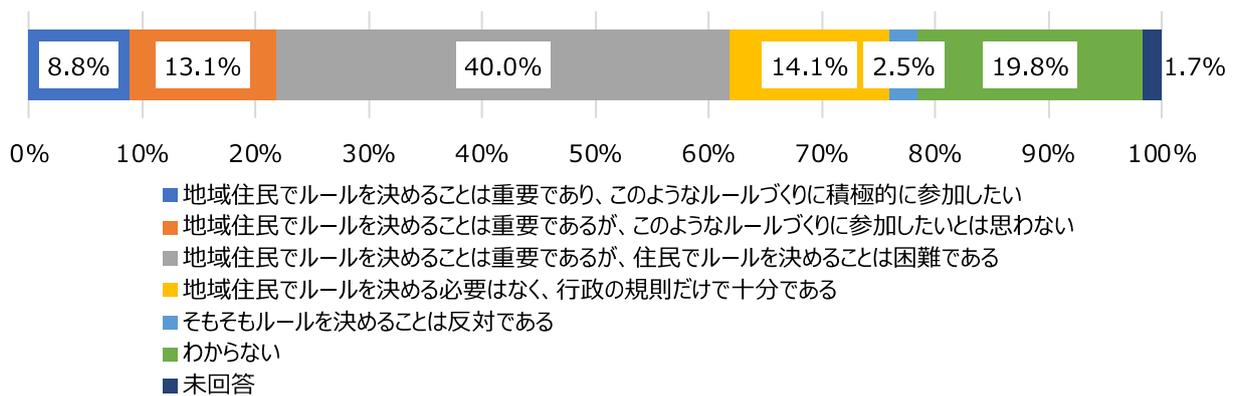
②住環境をよくしていくためにどのような規制をかけるべきか

上位3位までによれば、「日照や眺望などが悪化するような高層の建物の建設を規制する」、「利用されない空地や休耕田などを解消する」、「騒音・振動問題などが発生するような工場立地を規制する」ことが求められます。



③地区特性のルールを決めることについて

「重要ではあるが、住民でルールを決めることは困難」が多く、ハードルの高さを感じていると考えられます。



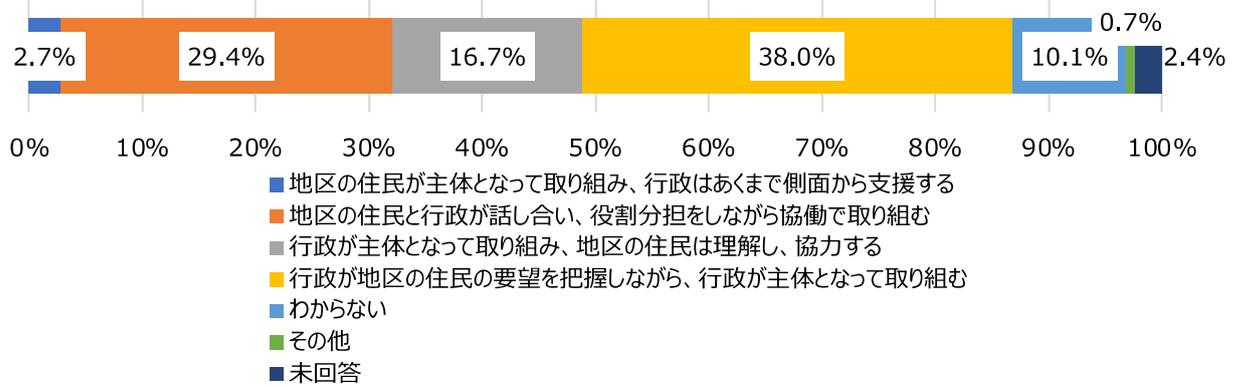
回答件数：863件 回答なし：15件 母数：878件



5) 行政と住民が協働で取り組むまちづくりについて

①住民と行政の役割分担について

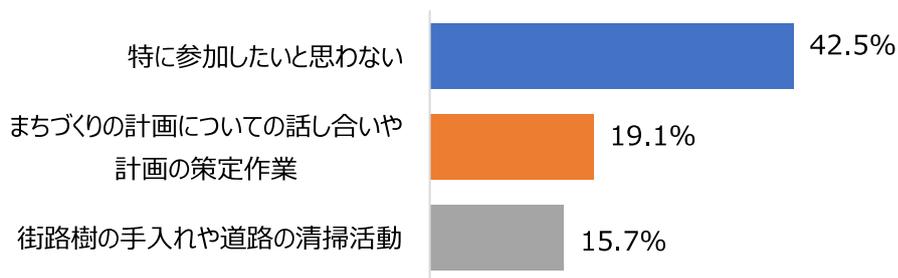
「行政が地区の住民の要望を把握しながら、行政が主体となって取り組む」が多くあげられています
が、約半数の住民が協力する意向をもっています。



回答件数：857件 回答なし：21件 母数：878件

②どのような取組に参加したいか

「特に参加したいと思わない」が一番多くなっています。



回答件数：1,271件 回答なし：17件 母数：878件 ※複数回答可（3つまで）



6) 扶桑町の魅力について

自由記入欄に書き込まれた意見の中では、生活の利便性、豊かな自然環境、駅や鉄道の立地に関する意見が多い傾向にあります。

大項目	中項目	小項目	主な意見	同様意見数		
				大項目	中項目	小項目
人口動態	人口増	－	全国的に人口が減る中、増加傾向にあり、子育て世代が増えている	3	2	-
	人口減	－	人口が少ないこと		1	-
防災・防犯、安全・安心	地盤	－	地盤が強いことは地域の誇り	28	2	-
	災害	－	災害がない・被害が少ない		9	-
	防犯・犯罪	犯罪の少なさ	犯罪が少なく、安心して平和に暮らせる		17	13
		取組	スクールガードなどの取組がしっかりしていて安心			
生活環境	商業施設	町内に商業施設が多い	買い物できる場所が多く、特に薬局が多いのが魅力	37	24	
		(イオンのような) 大型商業がある	近隣地域と比較して大きなショッピングセンターがあるのはとても便利			13
	便利・生活しやすい	住みやすい・生活しやすい	住宅街は穏やかで大変住みやすく、少し行くとお店や飲食店など充実しているので暮らしやすい	71	52	
		コンパクトなまち・なんでも手に届く	町がコンパクトであるため、駅や商業施設も遠く感じず利便性が良い			12
		商業・医療・公共施設等の立地	学校、病院などが周りにあり、生活しやすい			
	歩いて暮らせる	－	小さい町なので、年をとっても歩いてスーパー、役場、図書館にも行ける距離なので、健康に良い	201	5	－
	静か・落ち着いて住める	－	閑静で自然が多い住宅地	37	－	
	公害が無い	－	公害や騒音などのほとんどない生活環境	4	－	
	コミュニティ・気質	人のやさしさ・暖かさ	人々が優しく親しみやすい	41	21	
		人との関わりが豊富	老若男女、様々な特性を持った人が地域と関わりながら暮らしていける町			12
		町の美化などの地域活動	ゴミ出しのルールをみんながしっかり守っていて町内がきれい			
	まちの活気・にぎわい	－	駅前や中央道に以前よりも商店が増えて、活気が出てきた	4	－	
不満が無い	－	日々の生活に大きな不満のないことが魅力	2	－		

※自由記入



大項目	中項目	小項目	主な意見	同様意見数		
				大項目	中項目	小項目
土地利用	バランス	のどか・落ち着いたま ちの雰囲気	どこへ行ってものどかで静かに暮らすことが可能	64	54	13
		田舎と都市の丁度よ さ	適度に田舎で自然が多く、適度に都会で交通の 便が良い			41
	病院	－	医院、医者が多い 特に歯医者		4	－
	福祉	－	福祉サービスが充実している		4	－
	工場	－	工場などが少ない		2	－
高齢者	元気	－	とりわけ年配の人が元気で、それぞれの生活を楽 しんでいる	6	5	－
	施設が多い	－	小学校、中学校もあり、公園もあり、文化会館・ 図書館もあり、子供達も住みやすい		1	－
子育て	子育ての しやすさ	－	子供を育てるに当たり、とても安心できる街だと 感じる	26	16	10
	子育て環境	子育てに関する施設 が豊富	保育園や支援センターが充実している			5
		行政の手厚さ	子育てに際し、金銭面、学童などの施設、本当 に手厚かった			3
		自然・環境・遊べる 場	子育て支援センターや公園、子供広場、子供 会、老人クラブの活動も豊か			8
都市施設	扶桑緑地公園	－	小さな子から高齢の方まで幅広い年齢層の心の オアシスとなっている	53	43	－
	公園等	－	住宅街の中にも小さな公園があり、子育てもしや すい地域		8	－
	道路	－	道路が整備されきれい（ゴミが少ない）		2	－
地価	安い	－	都会への通勤、通学には便利でありながら、地価 も安く土地にゆとりがある	6	6	－
自然環境等	自然がある	自然が豊か	木や花がある緑豊かな場所があること 自然に溢れていて空気も良く過ごしやすい	73	53	36
		河川・水辺	木曾川周辺の水辺環境 歴史があり、一級河川である			14
		農地・山	田畑が広がる豊かな環境			3
	歴史・文化関連	－	伝統を守り受け継いでいる事は素晴らしい		16	－
	イベント	－	各町内で秋に行われる屋台神楽のお祭りは誇れ るもの、観光の目玉になるもの		4	－

※自由記入



大項目	中項目	小項目	主な意見	同様意見数		
				大項目	中項目	小項目
景観	都市景観	－	駅もお花があり、手入れもしっかりしてとても心が癒される	24	8	－
	自然景観	－	緑が多く四季折々で遠出をしなくても自然と触れ合える環境		16	－
特産	守口大根	－	木曽川が育んだ大地で育てるゴボウや守口大根などの農産物が全国に誇れる扶桑の産物	52	51	－
	地産地消	－	扶桑産の農作物が食べられるのも魅力		1	－
立地交通便利	駅・鉄道	周辺都市とのネットワーク・周辺都市に出やすい	名古屋まで名鉄一本で行けるという便利なところ	132	105	77
		町内の駅の豊富さ	駅が多く柏森駅は快速も停まるので、名古屋のベッドタウンとして魅力のある町			28
	道路アクセス	日常生活に便利（買い物・通勤）	食料品や日用品などが、少し車で走ればすぐに買いに行くことが出来る		27	8
		周辺都市へのアクセス性	インターも近く、交通に関しては鉄道もそうであるが、不便を感じたことはない			19
公共施設	文化会館	－	文化会館でのイベント内容が充実している	40	26	－
	公民館（活動）	－	公民館などでのコミュニティの集まりの活動が活発である		12	－
	学校・教育	－	学校、学習棟、図書館等、学びに触れる場が多い		2	－
行政	姿勢等	－	住民へのヒアリングなどを行っている点で、行政と住民、また住民同士の距離が近い点が魅力	13	13	－
その他	何もない	特になし(マイナスの意味合い強い)	20年以上住んでいるが魅力を感じるものがない	58	44	39
		何もないことがいい・ちょうどいい(プラスの意味合い強い)	何も無いのが魅力			5
	習い事等	－	空手教室がある 扶桑町出身の空手の先生がすごい		1	－
	コミュニティ・気質が嫌	－	昔ながらの決まり事など、進化が無く面倒		3	－
	ゆるい	－	路駐しても切符を切られない		1	－
	意見	－	車のない人用に扶桑駅からイオンまでのバスがあったらいい 道が狭いのが弱点		9	－

※自由記入



(2) 緑の基本方針

緑の将来像を踏まえ、緑の基本方針を設定します。

1) 緑の保全の方針

①地域資源であるまちの緑を維持します

- ◆ 既存公園、今後も営農が見込まれる農地、木曽川周辺の自然環境、指定文化財を地域の重要な資源と捉え、緑豊かな空間の保全を図ります。

②生物多様性に資する緑地を保全します

- ◆ 木曽川の水辺や周辺の樹林地といった自然環境は、多様な生物の生息地として、また、潤いをもたらす緑の水辺環境として保全を図ります。

③都市を繋ぐ緑を保全します

- ◆ 木曽川周辺の緑地公園やサイクリングロード、高雄地区の尾張広域緑道は、隣接都市と繋がる緑のネットワークです。これらは集客が見込める町の強みとして活用し、都市間の繋がりや交流の場として保全を図ります。

2) 緑の創出の方針

①地域バランスや町民ニーズを踏まえ、暮らしの中に新たな緑を創出します

- ◆ 現状の緑の位置や町民の声を踏まえ、市街化区域を中心に、不足しているところには新たな緑環境の創出を図ります。町民の憩いの場となるとともに、都市の防災機能を高めます。

②官民連携による緑の創出を図ります

- ◆ 行政だけでなく住民や事業者が連携し、緑豊かで質の高い空間を創出します。計画段階から行政と住民が協働で行う公園整備や、花いっぱい運動、生垣補助等の普及を推進します。

3) 緑の活用の方針

①緑を活用し、今後の活力につなげていきます

- ◆ 市街化調整区域の集落や農地を中心とした土地利用の転換が進んでいるところは、宅内緑化や農園付き住宅整備といった工夫により、「暮らし」と「自然」が共生した環境づくりを推進します。



(3) 緑の配置方針

緑が都市において果たす主要な機能として、都市環境保全、防災、景観、レクリエーションの4つがあげられます。これらの機能を持った緑がネットワークを形成することにより、緑の機能が効果的に発揮されます。この4つの機能から、配置方針を整理します。

【主要な機能別緑地の配置方針】

1. 都市環境保全システムの緑の配置方針

人と自然が共生する都市環境を確保するための緑の配置方針を示します。

2. 防災システムの緑の配置方針

都市の安全性・防災性を向上するための緑の配置方針を示します。

3. 景観システムの緑の配置方針

自然と調和した美しい景観を形成するための緑の配置方針を示します。

4. レクリエーションシステムの緑の配置方針

多様な余暇空間を確保するための緑の配置方針を示します。



1) 都市環境保全系統の緑の配置方針

人と自然が共生する都市環境の確保を目指し、以下のように都市環境保全系統の緑を配置します。

① 快適な生活環境を支える緑

- ◆ 市街化区域内において、現状で緑環境が不足している箇所を中心に「緑の推進エリア」と位置付け、新たな緑環境の整備を推進します。
- ◆ 市街化調整区域において、宅地利用がされているところは「緑の活用エリア」として位置付け、緑化推進事業補助制度の活用を促し、「自然」と「暮らし」が調和した緑豊かな住環境の形成に向けて、住宅地の中の緑環境の創出を推進します。

② 都市間を繋ぐ緑のネットワーク

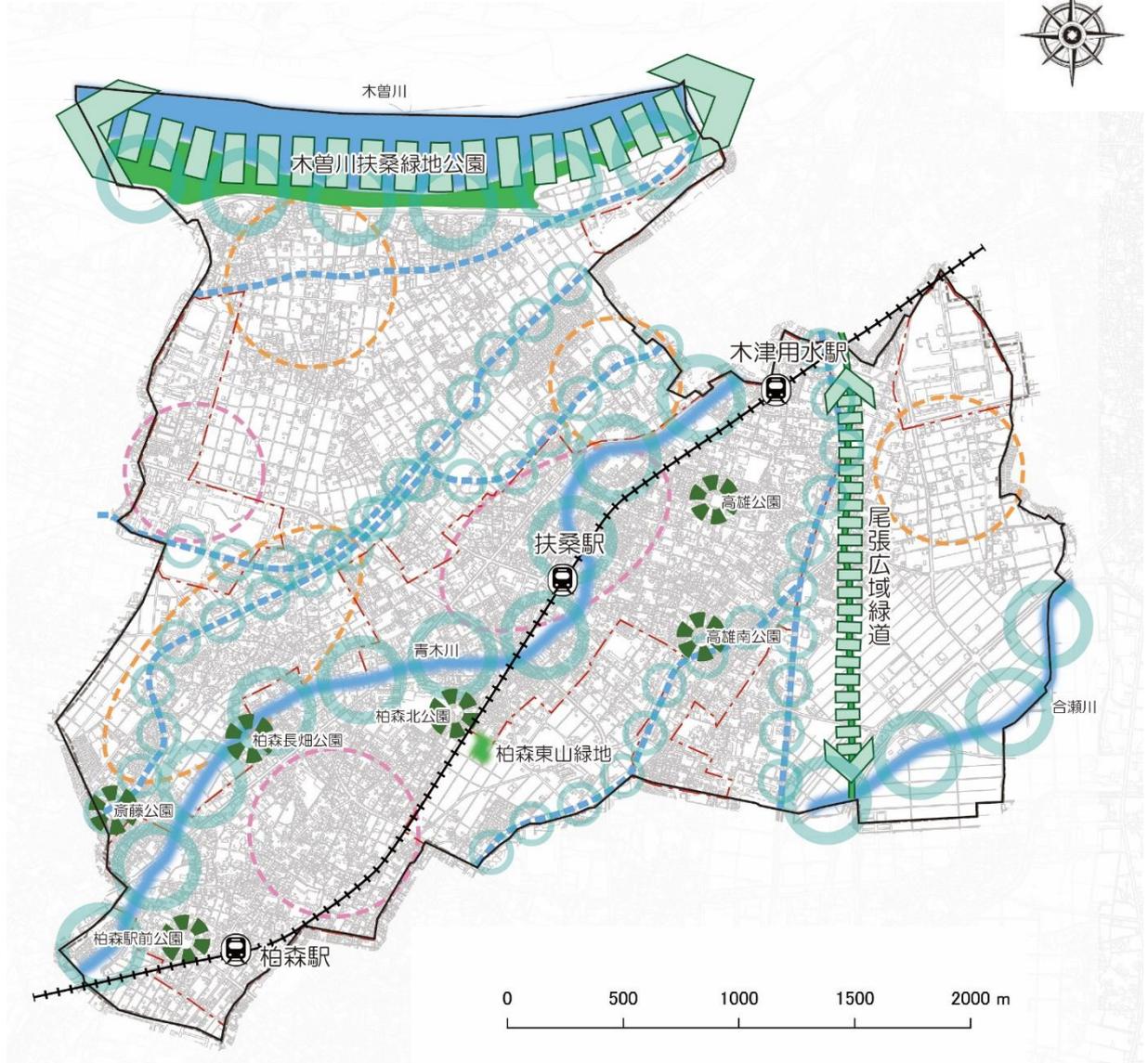
- ◆ 木曽川を中心とした木曽川扶桑緑地公園及び尾張広域緑道は、周辺市町を繋ぐ緑のネットワークです。「広域環境軸」として位置付け、都市緑化の骨格として維持していきます。

③ 優れた自然を有する緑

- ◆ 町内を流れる木曽川、合瀬川、青木川の3つの河川及び農業用水路（丹羽用水、般若用水、巾下水、木津用水）周辺の水辺や緑環境は、多様な生物の生息地として今後も整備を継続します。



【都市環境保全系統の緑の配置方針図】



凡 例	
	快適な生活環境を支える緑（緑の推進エリア）
	快適な生活環境を支える緑（緑の活用エリア）
	都市間を繋ぐ緑のネットワーク（広域環境軸）
	優れた自然を有する緑（河川）
	優れた自然を有する緑（用水路）
	緑のネットワーク
	都市公園
	都市緑地
	市街化区域
	鉄道・駅



2) 防災システムの緑の配置方針

都市の安全性・防災性の向上を目指し、以下の防災システムの緑を配置します。

① 自然災害拡大抑止に資する緑

- ◆ 緑が持つ保水機能を活かし、洪水防止を図るため、樹林地と営農が見込まれる優良農地の保全を図ります。

② 都市の災害の防止に資する緑

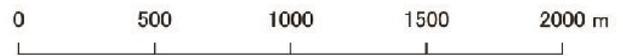
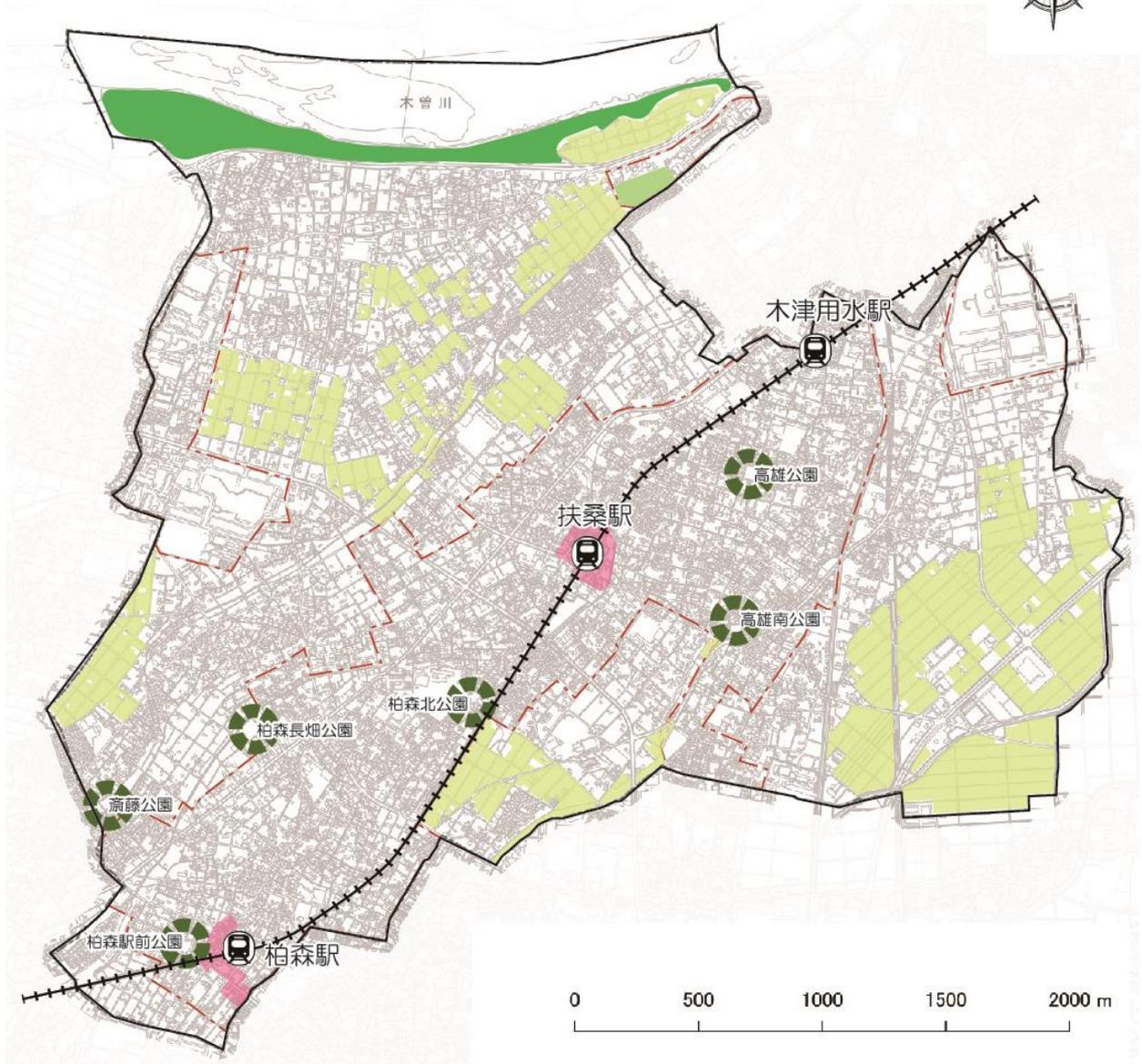
- ◆ 市街地での火災時の延焼を防ぐために、住宅地においては生垣設置を促進します。
- ◆ 駅周辺の準防火地域においては、市街地火災の避難場所として、駅前広場等のオープンスペースの活用を図ります。

③ 避難場所・防災活動拠点となる緑

- ◆ 災害から人命を守る避難場所や防災活動の拠点となる公園については、防災倉庫や防災遊具等の整備を図ります。



【防災システムの緑の配置方針図】



凡 例	
	自然災害の防止に資する緑（農用地）
	都市の災害の防止に資する緑（準防火地域）
	避難場所・防災活動拠点となる緑（都市公園）
	避難場所・防災活動拠点となる緑（都市緑地）
	市街化区域
	鉄道駅



3) 景観系統の緑の配置方針

自然と調和した美しい景観の形成を目指し、以下の景観系統の緑を配置します。

① 自然景観を形成する緑

- ◆ 木曽川、合瀬川、青木川の3つの河川及び農業用水路（丹羽用水、般若用水、巾下用水、木津用水）周辺の水辺や緑環境は町内の豊かな自然景観を形成している重要な要素であるため、今後も保全を継続します。
- ◆ 緑豊かな集落景観を形成するため、守口大根等の生産を行っている優良な農地や樹林地の保全を図ります。

② 良好な市街地景観を形成する緑

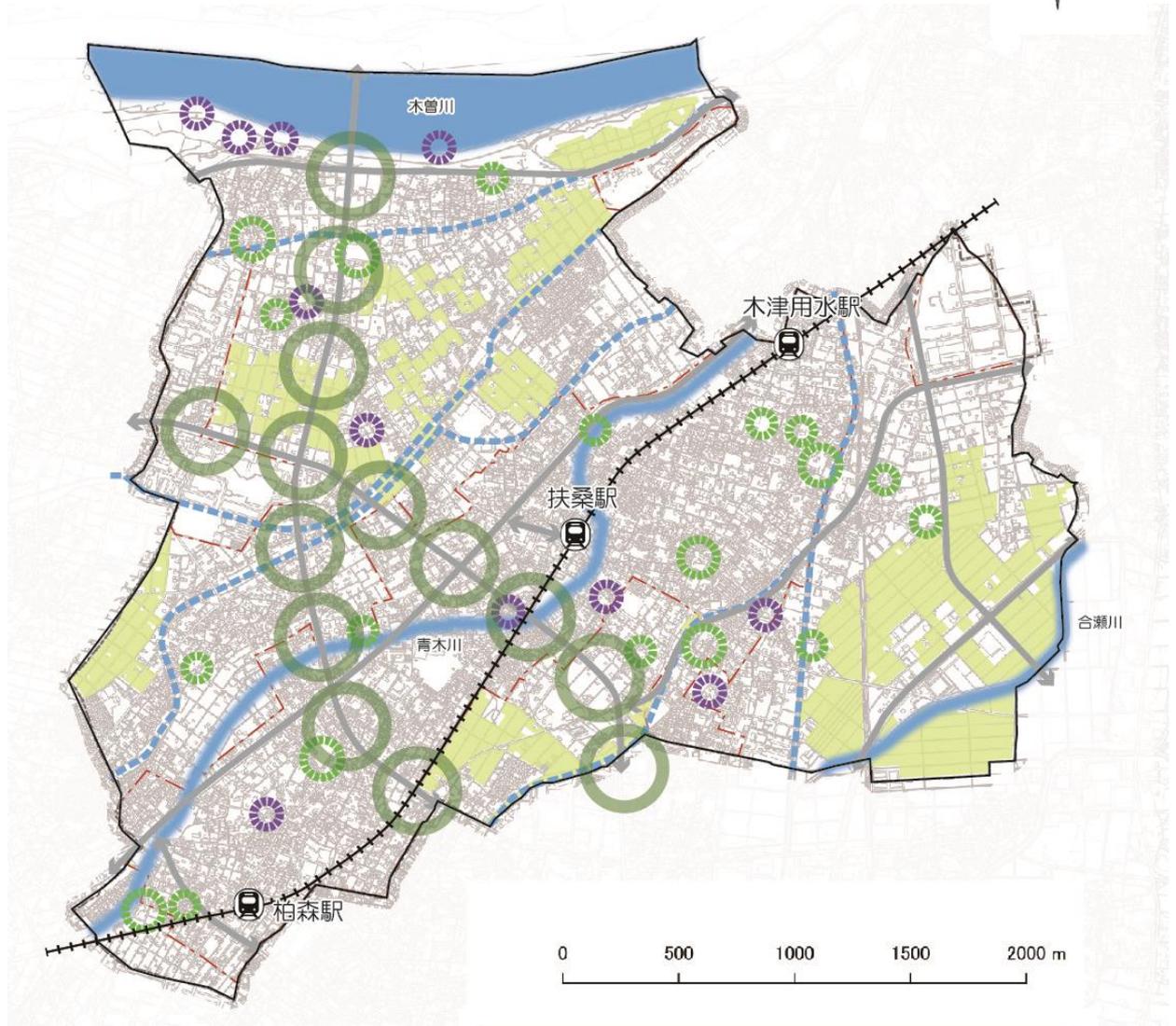
- ◆ 生垣助成や花いっぱい運動等、官民が連携した緑の創出により、緑豊かな住宅地の景観形成を図ります。
- ◆ （都）愛岐大橋線、（都）斎藤羽黒線、県道斎藤羽黒線、（都）小淵江南線、（都）一宮犬山線においては、街路樹の整備を推進し、四季を感じられる魅力的な道路の景観形成を図ります。
- ◆ 工場や商業施設の整備においては、宅内緑化を推進し、周辺の住環境や自然環境に配慮した産業地の景観形成を図ります。

③ 歴史的・文化的な景観を形成する緑

- ◆ 保存樹や指定文化財周辺の緑は、後世まで継承される都市景観を形成する緑であるため、今後も保全を図ります。



【景観系統の緑の配置方針図】



凡 例	
	自然景観を形成する緑 (河川)
	自然景観を形成する緑 (用水路)
	自然景観を形成する緑 (農用地)
	良好な市街地景観を形成する緑
	歴史的・文化的な景観を形成する緑 (保存樹)
	歴史的・文化的な景観を形成する緑 (文化・歴史的な施設)
	幹線道路
	市街化区域
	鉄道駅



4) レクリエーション系統の緑地の配置方針

多様な余暇空間の確保を目指し、以下のレクリエーション系統の緑地を配置します。

① 日常的なレクリエーションに資する緑

- ◆ 町民の憩いの場やスポーツ活動の拠点として、生活の身近にある都市公園や緑地、児童遊園、総合グラウンド、北部グラウンドといった公共施設緑地は、快適性や安全性に配慮した適正な管理により、維持していきます。

② 広域的なレクリエーションに資する緑

- ◆ 木曽川周辺はサイクリングロードが整備され、広域的な利用が活発化しているため、今後も活用を推進します。

③ 新たな緑の拠点づくり

- ◆ 木曽川扶桑緑地公園周辺を「緑のふれあい交流拠点」に位置付け、公園を整備します。町内外から人々が訪れ、スポーツ、レクリエーション等を楽しめ、四季折々の自然や景観を味わうことができるようにするとともに、多様な生物が生息できる環境の整備を図ります。



【レクリエーション系統の緑地の配置方針図】



凡 例	
	日常的なレクリエーションに資する緑 (都市公園)
	日常的なレクリエーションに資する緑 (都市緑地)
	日常的なレクリエーションに資する緑 (児童遊園)
	日常的なレクリエーションに資する緑 (グラウンド)
	日常的なレクリエーションに資する緑 (サイクリングロード)
	新たな緑の拠点づくり (緑のふれあい交流拠点)
	市街化区域
	鉄道駅



5) 総合的な緑の配置方針

緑を主要な機能別の配置方針に基づき、総合的な配置方針に整理します。

①重要な緑の配置

都市環境保全、防災、景観、レクリエーションの機能を持つ緑のうち、特に重要な緑を位置付け、保全・整備の対象として配置します。

■都市環境保全上 重要な緑

…木曽川とその周辺に広がる自然環境、都市公園や緑地

■防災上 重要な緑

…総合グラウンド、北部グラウンド

■景観上 重要な緑

…水辺周辺の自然や優良農地、保存樹や指定文化財周辺の緑

■レクリエーション上 重要な緑

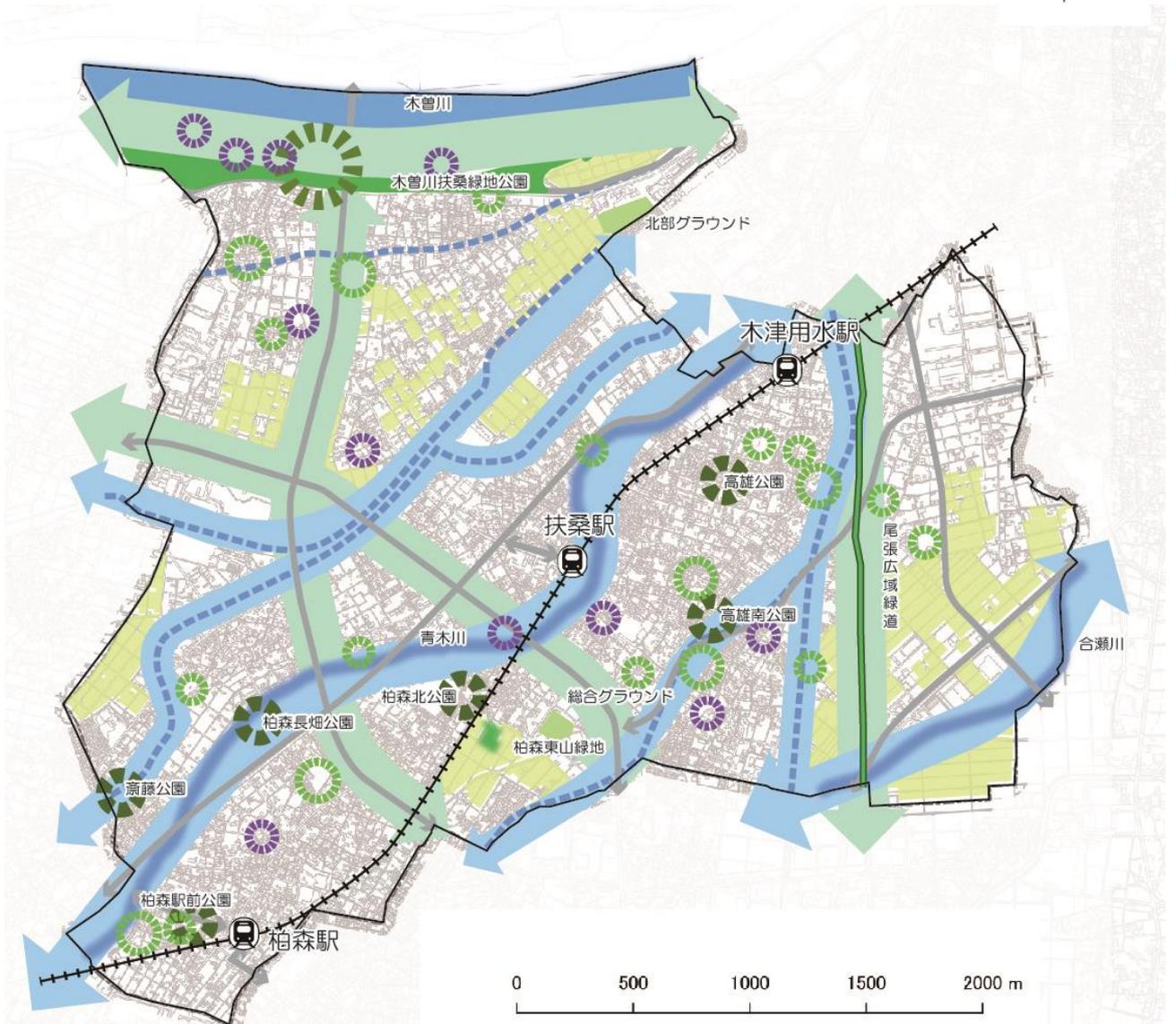
…木曽川扶桑緑地公園、サイクリングロード

②水と緑のネットワーク

- ◆ 木曽川扶桑緑地公園や周辺のサイクリングロード、尾張広域緑道の整備・保全を推進することで、周辺市町を繋ぐ緑のネットワークを形成します。
- ◆ 幹線道路は街路樹の整備を推進し、良好な市街地景観の形成に資する潤いある緑のネットワークを形成します。
- ◆ 木曽川、合瀬川、青木川の3つの河川、及び農業用水路の水辺や緑環境は、多様な生物の生息地として今後も整備を継続します。



【総合的な緑の配置方針図】



凡 例	
農用地	河川・用水
グラウンド	緑の拠点
都市公園	保存樹
都市緑地	文化・歴史的な施設
水と緑のネットワーク	幹線道路
緑のネットワーク	市街化区域
	鉄道駅



資一5 用語解説

■ あ行

空き家バンク

賃貸・売却を希望する空き家の情報を、空き家を利用したい人に紹介する仕組み。

扶桑町空き家バンクは、愛知県宅建業協会が運営を行っている。

アダプトプログラム

住民が公共施設、たとえば公園や歩道などをわが子のように愛情をもって面倒をみて、気持ちよく利用出来るようにごみを拾ったり樹木に水をあげたり除草したりするボランティア活動のこと。

ICT

Information and Communication Technology の略語であり、情報通信技術のこと。

IoT

Internet of Things の略語。建物、電化製品、自動車、医療機器など、パソコンやサーバーといったコンピューター以外の多種多様な「モノ」がインターネットに接続され、相互に情報をやり取りすること。

インフラ

インフラストラクチャーの略語であり、道路や鉄道、上下水道、発電所・電力網、通信網、治水施設などの公共的・公益的な設備や施設、構造物のこと。

雨水浸透枳

住宅地などに降った雨水を地下へと浸透させることのできる装置。雨水を資源として有効活用することを目的としてつくられた。

雨水貯留施設

雨水の流出を抑制するための施設で、その敷地内に降った雨を一時的に貯留するもの。

液状化

地下水位が高く、ゆるく堆積した砂地盤などが、地震により激しく揺れることにより、砂の粒子が水と混ざり合って地面が液体のようになること。

SNS

Social Networking Service の略語。個人間のコミュニケーションを促進し、社会的なネットワークの構築を支援する、インターネットを利用したサービスのこと。趣味、職業、居住地域などを同じくする個人同士のコミュニティを容易に構築できる場を提供している。

SDGs

Sustainable Development Goals の略語。2001年に策定されたミレニアム開発目標（MDGs）の後継と



して、2015年9月の国連サミットにて採択された、「持続可能な開発のための2030アジェンダ」にて記載された2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標。17のゴール・169のターゲットから構成され、地球上の「誰一人取り残さない（leave no one behind）」ことを誓っている。発展途上国のみならず、先進国自身が取り組むユニバーサル（普遍的）なものであり、日本としても積極的に取り組んでいる。

屋上緑化

身近な緑を創出するために、建物の屋上に植栽すること。屋根の断熱性能が高まり、省エネルギー効果や都市における気温低減効果などがある。

オープンスペース

公園・緑地や水辺、広場等の公共的な空間や、道路空間と連続した民有地で、一般に開放され自由に通行または利用することのできる、開放的で広がりのある空間。

■ か行

街区公園

主として街区内の居住者の利用に供することを目的とする都市公園で、区内の居住者が容易に利用することができるように配置し、その敷地面積は、0.25haを標準として定める。

家屋倒壊等氾濫想定区域

家屋倒壊等氾濫想定区域には「家屋倒壊等氾濫想定区域（氾濫流）」と「家屋倒壊等氾濫想定区域（河岸侵食）」がある。

「家屋倒壊等氾濫想定区域（氾濫流）」は家屋の流失・倒壊をもたらすような洪水の氾濫流が発生するおそれがある範囲、「家屋倒壊等氾濫想定区域（河岸侵食）」は家屋の流失・倒壊をもたらすような洪水時の河岸侵食が発生するおそれがある範囲のこと。

合併処理浄化槽

水洗式便所と連結して、し尿と併せて生活排水を微生物の働きなどを利用して浄化し、きれいな水にして放流するための施設。

狭あい道路

幅員4m未満などの狭い道路のこと。

近隣商業地域

近隣の住宅地の住民に対する日用品の供給を行うことを主たる内容とする商業その他の業務の利便を増進する地域に定めるもので、都市計画法の用途地域の一つ。

工業地域

主として工業の利便を増進する地域に定めるもので、都市計画法の用途地域の一つ。



コンパクトなまちづくり

市街地の拡大に歯止めをかけ、都市の中心部など都市の核となる地区への人口回帰を図り、生活の諸機能や都市機能が集合したまちづくりのこと。

■ さ行

シェアリングモビリティ

自動車や自転車などの乗り物（モビリティ）を共有（シェア）すること。

市街化区域

都市計画区域のうち、市街地として積極的に開発・整備する区域で、既に市街地が形成されている区域及び概ね 10 年以内に優先的かつ計画的に市街化を図るべき区域。

市街化調整区域

都市計画区域のうち、市街化を抑制すべき区域。

自然災害

暴風、豪雨、洪水、渇水、地震などの異常な自然現象により生じる被害。

指定緊急避難場所

災害が発生し、又は発生するおそれがある場合に、緊急的に避難し身の安全を確保する施設又は場所のこと。地震・外水氾濫等の災害の種別ごとに指定している。

住工混在

住宅と工場が混在していること。住宅と工場が混在している地域では、騒音、振動、臭気、埃などといった公害の発生や工場の大型車の走行・作業等に伴う交通渋滞など、工場側と近隣住民との間で様々な問題が生じている。

スプロール

都市の急速な発展により市街地が無秩序、無計画に広がっていくこと。

生物多様性

生物の多様さとその生息環境の多様さを表す概念。生物の多様性は「生態系の多様性」、「生物種の多様性」、「遺伝子（種内、個体群）の多様性」の 3 つのレベルから捉えることができる。

セットバック

建築基準法に基づき、幅 4m 未満の道路に面する土地で、その道路の中心線から水平に 2m 後退して建築物を建築すること。



総合治水対策

河川及び下水道その他の排水施設の整備のほか、地下に浸透しないで他の土地へ流出する雨水の量の増加の抑制、水防体制の強化その他の浸水被害の発生及び拡大の防止を図るための総合的な対策。

Society5.0

サイバー空間（仮想空間）とフィジカル空間（現実空間）を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する、人間中心の社会（Society）のこと。狩猟社会（Society1.0）、農耕社会（Society2.0）、工業社会（Society3.0）、情報社会（Society4.0）に続く未来社会の姿として提唱されている。

■ た行

地球温暖化

温室効果ガスの増加により、地球から放出される熱量よりも吸収される熱量が増え、地球の平均気温が上昇していく現象。

地区計画

都市計画法で定められた都市計画のひとつ。土地の用途や建物の高さ制限等を定めることで、効率的な土地利用を図るとともに、秩序あるまちづくりを図るための制度のこと。

昼間人口

常住人口から通勤・通学のための移動人口を増減した人口のこと。常住人口－流出口口＋流入人口で算出する。

町民農園

農家ではない町民がレクリエーションとして自家用野菜、花の栽培、高齢者の生きがいづくり、児童・生徒の体験学習などの多様な目的で、小面積の農地を利用して野菜や花を育てるための農園をいう。

低未利用地

本来、建築物などが建てられその土地にふさわしい利用がなされるべきと考えられる土地において、そのような利用がなされていない土地のこと。

テレワーク

普段働いている場所から離れて（テレ）働く（ワーク）ことを意味する言葉で、ICT（情報通信技術）を活用した場所や時間にとらわれない多様で柔軟な働き方のこと。

透水性舗装

雨水を浸透、保水させる構造となっている舗装のことで、主に道路、歩道の舗装に使用され、雨水の地中への浸透による雨水流出抑制や雨天時の歩行性向上などに効果がある。



都市計画道路

都市の将来像を見据えて円滑な交通と良好な都市環境を形成するために、概ね 20 年後を目標として長期的な整備水準を検討し、道路の機能に応じて自動車専用道路、幹線街路、区画街路、特殊道路の 4 種別に分類し、都市計画に定めるもの。

■ な行

農業振興地域

農業振興地域の整備に関する法律に基づき、農業の健全な発展を図るとともに、国土資源の合理的利用に寄与するために、長期にわたり農業の振興を図るべき地域のこと。

農用地

農業振興地域整備計画の農用地利用計画により定める、概ね 10 年先を見越して農地として保全していく区域のこと。

■ は行

バリアフリー

障がいを持つ人、高齢者などの移動を妨げるような物理的なバリア、心理的なバリア、社会制度的なバリアなどを取り除くという考え。

壁面緑化

身近な緑を創出するために、外壁をツタ等の植物で覆ったり、外壁にフラワーポットなどを設置すること。

ポテンシャル

潜在的な力。可能性としての力。

■ ま行

密集市街地

道路が狭く、小規模な建物が集積している市街地のこと。生活環境や防災面などで問題を抱えている場合が多い。

■ や行

夜間人口

夜間に常住する人口のこと。

ユニバーサルデザイン

年齢、性別、国籍の違いや障がいの有無等にかかわらず、すべての人が利用可能なように、はじめから計画して実施し、その後も改良等を検討していくという考え方。